

季刊

博物館だより

FUKUSHIMA MUSEUM
QUARTERLY

URL <http://www.general-museum.fks.ed.jp>

84

まほろん移動展

新編陸奥国風土記 [卷之五]

会津郡・耶麻郡

その一

福島県立博物館



まほろん移動展 新編陸奥国風土記「巻之五」
会津郡・耶麻郡 その一

会期 3月10日(土)～5月13日(日)

「郡家の東二十三里 高き山あり。天に梯子懸けたる如し。故 磐梯山といふ。上古、人あり。棘極めて長大く……」

もし「陸奥国風土記」が残っていたら、こんな一文があったのかもしれない。

「風土記」は八世紀に、諸国の土地柄、産物、伝承などを記した書物で、ほぼ完全な「出雲国風土記」が有名です。今の福島県が属した陸奥国にも「陸奥国風土記」がありました。その内容はほとんど伝わっていません。

この風土記の世界を、出土品からつづつていく試みが、まほろん（福島県文化財センター白河館）の「新編陸奥国風土記」展です。県内を古代の郡ごとに分け、収蔵する考古資料や遺跡を紹介しています。昨年、シリーズ五回目で初めて「あいづ」地域が取り上げられました。これを機に、まほろんから「あいづ」の縄文時代と弥生時代の考古資料が期間限定で里帰りすることになりました。さらに今回は、館蔵資料や会津の市町村所蔵資料もあわせて展示する「拡大版」となります。

では少しだけ見どころを紹介しましょう。まずは法正尻遺跡（猪苗代町・磐梯町）。この遺跡は一三〇軒をこえる住居跡や数百基の地下式貯蔵庫などが発見された、南北を代表する縄文時代中期の大規模なムラの跡です。ほぼ完全な形の縄文土器が数百点出土しています。この中からとくに造形的にすぐれた土器約三〇点を紹介します。分厚く、ずっしりとした量感のある器形にダイナミックさと繊細さをあわせ持つ立体的な文様を描いた縄文土器。その存在感をゆつくりと、じっくりとお楽しみください。



法正尻遺跡縄文土器出土状況

つぎに荒屋敷遺跡（三島町）。低湿地から見つかった縄文時代晩期の植物質資料の数々。当館に寄託されている県指定重要文化財を久々に公開します。斧の柄や編みカゴ類、木製容器、縄などの道具類や赤漆塗り糸玉、ヘアピン、赤く塗られた土器といった、当時の豊かな生活を物語る出土品が豊富です。

そして一ノ堰B遺跡（会津若松市）。一一二基の土坑墓が発見された弥生時代中期の墓地です。遺体を埋める際に土器を割って封をするという独特の風習が明らかになりました。管玉や勾玉のアクセサリーも副葬されています。

最後に桜町遺跡（湯川村）。弥生時代終わり頃の方形周溝墓が発見され大きな話題となりました。出土した弥生土器には北陸や関東方面の特徴をもつものがあります。古墳時代につながる新たな時代の始まりを予感させます。

このほか、人骨とサメの歯が出土した西会津町塩岩陰遺跡。ナゾの文様が描かれた南会津町出土の縄文土器。最近まで調査が続けられた会津美里町油田遺跡出土の弥生時代再葬墓資料など、まだまだ紹介しきれないあいつの「縄文・弥生」があります。ぜひご覧ください。

(考古担当 高橋 満)



(右上) 荒屋敷遺跡出土赤漆塗り糸玉
(左上) 一ノ堰B遺跡の土坑墓群
(下) 桜町遺跡出土土器



南会津町出土のナゾの縄文土器
(三ツ又の線は何を表わすのか…?)

関連行事

○展示解説会

日時 四月二十八日(土) 一三時半
講師 学芸員 森 幸彦
日時 五月十三日(日) 一三時半
講師 学芸員 横須賀倫達

まほろん移動展「新編陸奥国風土記巻之五 会津郡 耶麻郡 その一」は、三月二〇日(土)から五月二三日(日)まで開催しています。観覧料 常設展観覧料でご覧いただけます。一般・大学生二六〇円(二二〇円) / 高校生・小・中学生無料 () は二〇名以上の団体の場合の料金です。

冬の特選資料展 「奥会津の職人巻物」 関連事業

◎民俗講座

「会津の職人巻物の民俗的世界」

平成一九年一月二八日(日)
講師 当館学芸員 佐々木長生

【講座要旨】

南会津郡只見町など奥会津地方の職人たちは、「巻物」と呼ばれる職や職神の由来や、祭の方法などを記述したものを所持し、その職務にあたってきました。只見町では、番匠(大工)や屋根葺・木地屋・狩人・元山(伐採)・石工・庭師など技術職のほか、連雀商人や武術・算術など多様な職にわたっています。また、冠婚葬祭の次第をつとめる小笠原流の礼儀作法を記述したものなどもあります。

これらの巻物は、師匠の親方から弟子へと伝授されてきました。弟子たちは五年ほどの修行の後、弟子離れするとき一人前の職人として、道具と紋付袴などとともに伝授されます。伝授の方法は、師匠が持つ巻物を神主や僧侶などに書写してもらい、巻物仕立てに表具して与えます。巻物の最後には、伝授した期日と師匠と弟子の名前を書きます。

巻物は袱紗に包み桐箱に収めるなどして、神棚や蔵の中などに大切に保管しておきます。正月には床の間に飾って、お膳に一人前の正月料理を盛り供える家もあります。また、巻物はやたらに見るものではないとか、他人に見せるものではないといひます。狩人の巻物のように、これを犯すと目が潰れるなどというものもあります。これらの伝承は、巻物の民俗が今日に生きている証といえます。

職人巻物は各地に存在しますが、奥会津地方のように多くの職種と職人たちが所持し、その民俗が今日まで生きていることは大変まれなことです。東北地方にも屋根葺巻物が、点々と存在しますが、奥会津地方のようにほとんどの職人が持つことはなく、数も極めて少ない状況です。ましてこれらが、使用されることはほとんどなく、過去の民俗といえます。

奥会津地方では、師匠が早死にし巻物が伝授されなかつた弟子が、近年兄弟子から巻物を伝授して所持するという民俗が、一〇年ほど前も行われていました。これは巻物が一人前の職人の証であるため、その職業が今日ほとんど需要がなくても巻物だけは所持したいという職人氣質であり、そこに職人巻物の民俗が生きているといえます。また、只見町の大



伯楽(馬医)の巻物「秘録之巻」



小笠原流礼法、祝儀に関する巻物と祝飾り(島台、富貴台、掛軸等)

工たちは上棟式に現在でも巻物をひろげ、祝詞をあげています。そのため、新しく巻物を作ることが近年まで行われています。最近では、師匠の巻物をカラーコピーして所持しているものを見ました。

巻物の最後には、伝授の期日と師匠と弟子の名前が記述されているため、その技術の系譜をたどることもできます。屋根葺巻物などは、その一例です。このような職人巻物は会津地方に広く存在したものの、その民俗が生きているのは奥会津地方のみとなりました。今回の特選資料展「奥会津の職人巻物」は、会津の民俗的世界を紹介しています。

(民俗担当 佐々木長生)

Q・・学校の歴史の授業で、戦時中は配給制度により自由に物を購入することができず、物資不足で人々の生活は非常に苦しかったということを学びました。配給制度とはどのようなものだったのですか？

A・・日本はもともと資源が乏しく、戦時中の物資不足を補うために配給制度が導入されました。その目的は限られた物資を軍需に優先的に回すとともに、不足しがちな生活物資を国民に平等に行き渡らせる、ということでした。初めは工業原料の工場への割り当てから始まり、戦争が長期化するに伴い生活物資の配給制が実施されました。そのしくみは買える物やそれらの分量を国から割り当てられ、切符や通帳を使用して買い物をする、というものです。戦況が悪

Q・・博物館では配給制度関連の資料としてどのようなものを展示していますか？またそれらの資料について少し詳しく教えてください。

A・・常設展示室には配給制度の関連資料として、衣料切符や家庭用味噌醤油購入通帳、木炭バスなどが展示してあります。まず一九四二(昭和一七)年に導入された衣料切符についてですが、これは年齢・性別・職業に関係なく、一人一年間に都市部では一〇〇点、農村部では八〇点の切符が配給され、その範囲内でしか衣料が購入できないというしくみでした。次に福島県発行の家庭用味噌醤油購入通帳についてですが、中を見ると四人家族のもので一九四二(昭和一七)年頃には、ひと月に味噌が一貫八〇匁(約

戦時下の生活

化するに従い生活物資のほとんどが配給制となつていきました。

衣料の種類	点数
背広・モーニング・燕尾服三揃え	50
あわせ・長じゅばん・綿入・丹前	48
国民服・学生服の上下	32
婦人ワンピース	25
労働作業着・防空服・敷ふとん	24
毛布	18
男女学童服上下	17
海水着・ワイシャツ・開襟シャツ	12
モンペ	10
パンツ	4
手ぬぐい	3
くつした・くつしたカバー	2
ぬい糸(10匁まで)	1

衣料切符点数表

Q&A

回答者
歴史担当
関口 功

四kg)、醤油が一升二合程度配給されていたことがわかります。

最後に常設展近現代の部屋に入って最も目立つ木炭バスです。日本では石油はほとんど産出しません。そのため戦争が長引くにつれ薪や木炭で動く代燃車が奨励され、一九四一(昭和一六)年には原則としてすべてのバスは代燃車となりました。木炭バスはエンジンの基本構造はガソリン車と同じで、後部に取り付けられた木炭燃焼装置で木炭を燃やし、そのガスを燃焼させて動きます。平地では最高時速七〇kmぐらい出しましたが、燃焼効率はガソリンよりも劣るので馬力は小さく、急な坂道などでは乗客に押しもたつて動かしたこともあったそうです。また



木炭バス(復元模型)

発車までにはしばらく木炭を燃やしガスをためなければならず、長距離の場合途中で木炭をくべながら走っていたそうです。博物館の木炭バスは川俣く浪江間を走っていたバスを、設計図等は空襲等で消失したため、残っていた写真や関係者の証言をもとに復元したものです。乗客の服装も一九四二(昭和一七)年当時を再現したもので、青年の着ている国民服は桑の織維を織って作っています。

Q・・主食である米の配給はどのようなものだったのでしょうか？

A・・太平洋戦争開戦時の米の配給量は、普通成人一人あたり一日二・三合でした。その配給の米も終戦が近づくにつれてより玄米に近いものになり、さらに配給の遅れや、芋や大豆などの代替え食料の配給が多くなるなど、国民の食料事情は逼迫していきま

倭國大亂

木本元治 考古担当

日本が世界史上に最初に登場するのは『漢書』『地理誌』で、その後の『三國志』『魏志』倭人伝には邪馬台国と卑弥呼のことが記されています。そこでは卑弥呼が女王となる前には倭の国々が共に戦い混戦していたと述べています。それを『後漢書』倭伝では「桓靈間倭國大亂相攻伐、曆年無主。」と記しています。後漢の桓帝・靈帝の時期は紀元二世紀であり、考古学上の区分では弥生時代後期に相当します。この戦乱の時期、福島県のある東北南部はどうなっていたのでしょうか。

東北地方では天王山式土器の成立をもって弥生時代後期とします。この土器は縄文を多用し一見古いようなイメージを受けますが、白河市天王山遺跡では関東の弥生時代後期の土器が伴い、住居跡で土器からこぼれた多量の米が出土しており、稲作農耕を基盤とした社会だったことがわかります。また最近新潟県で多くのガラス玉を副葬した土坑墓(楕円形の穴に遺体を埋葬した墓)が発見されました。ガラス玉は東日本の弥生時代では珍しい貴重品です。弥生文化の発展に伴い遠隔地から入手した貴重品を墓に副葬できる有力層が出現したことを示しているでしょう。しかし一部の土坑墓に玉を副葬するあり方は弥生時代中期の村落共同墓地にも見られ、これらの被葬者はまだ村の第一人者の有力者だったと考えられます。

しかしその次の時期には大きく様相が変わります。河沼郡湯川村の桜町遺跡ではこの時期の方形周溝墓

と呼ばれる墓跡が発見されています。これは十数程の範囲を四角に溝で囲ったお墓で、そこには盛土の墳丘が作られていました。墓を囲む溝はその墓を他から切り離すもので、区画された特別な墓を造れる階層が成立したことを示しています。

天王山式段階では他地域の土器は一部関東系のものに伴う程度で、殆どが在地の土器でした。しかし桜町遺跡の方形周溝墓の土器は天王山式直後のものが主体ですが、関東系その他にそれまでは見られなかった北陸系の土器も伴います。これ以降の土器では北陸系の要素が目立つようになり古墳時代へと続いていきます。このような資料は会津地域を中心に、

ほぼ県内全域で確認されています。またこの時期、新潟県などでは小高い丘陵の縁に溝を廻らした高地性集落が出現します。この溝は外敵を防ぐもので、この時期戦乱が頻発していたことを示しています。このような戦乱のなから方形周溝墓に葬られるような階層が出現したことも考えられます。このような現象が倭國大亂の時期に見られるので、統一国家成立前夜の戦乱が東北南部まで及んでいたことが考えられます。三月から当館が開催する「まほろん巡回展―新編陸奥国風土記巻之五 会津郡・耶麻郡その一―」でその資料を展示しますのでぜひご覧下さい。



在地の土器



北陸系の土器

桜町遺跡5号周溝墓出土土器

トピックス



第三土曜日は博物館へ！

四月から、第三土曜日は博物館のために空けておいて下さい。

公演や映画会、コンサートなどのイベント、館長の土曜講座など、見て楽しい、聞いて面白い催し物を毎月予定しています。

新設される館長土曜講座の今年度のテーマは「東北学」。これまでに引き続き行う木曜の広場ともあわせてご聴講下さい。

その他、会津能楽会による「桜能」、福島市在住の詩人・和合亮一さんが常設展の展示資料を詩に読む「詩人が歩く、むかしと歩く@県博」、博物館友の会会員のみなさんの技を披露する「友の会文化祭」、ピアノの前身・チェンバロを演奏する「クリスマスコンサート〜チェンバロの調べ〜」などなど。

第三土曜日は博物館へ!!

(学習広報班 小林めぐみ)

平成19年度の第3土曜イベント

4月21日	〈四季のイベント〉桜能	会津能楽会
5月19日	〈館長土曜講座〉東北学1	館長 赤坂憲雄
6月16日	詩人が歩く、むかしと歩く@県博	和合亮一さん
7月21日	〈館長土曜講座〉東北学2	館長 赤坂憲雄
8月18日	〈四季のイベント〉映画上映会	
9月15日	〈館長土曜講座〉日本の民具	館長 赤坂憲雄
10月20日	友の会文化祭	
11月17日	〈四季のイベント〉語りと調べ	横山幸子さん、他
12月15日	〈四季のイベント〉クリスマスコンサート〜チェンバロの調べ	尾形純子さん
1月19日	〈館長土曜講座〉東北学3	館長 赤坂憲雄
2月16日	ひな人形まつり	
3月15日	館長と語る昔話	

*催し物のタイトルは仮称のものを含みます。
*開演開始時間など詳細は、博物館へお問い合わせ下さい。

夏の企画展

樹と竹

―列島の文化、北から南から―

東アジアに位置するわが国の文化を、北と南からの視点で見つめよう企画しました。ブナ林をはじめとする落葉広葉樹の植生を主とした「北の文化」、竹林や照葉樹などの植生を主とした「南の文化」、人々はこれらにどう関わり、それぞれの文化を育んできたかを考えます。また、これらの文化は、わが国の中央部に位置する文化とどう関わるのかも問います。

北の文化はアムール川流域から樺太・北海道、東北地方、南の文化は東シナ海から台湾・沖縄、南九州地方という、「東アジア内海世界」というグローバルな範囲を設定し、展示を構成します。北の樹皮・剝物などの生活用具と、南の竹製の生活用具を中心に植生からの文化の相違と系譜などを考えます。

今回の企画展は、鹿児島県歴史資料センター黎明館との共同企画で開催するものです。両地域の文化を体感して下さい。



東北地方の箕・皮箕 (福島県南会津郡只見町 材質：サワグルミ)

(民俗担当 佐々木長生)

夏の企画展は、平成一九年七月二日(土)〜九月一七日(月)まで

「第2回ふくしま絵本大賞原画展」
会期 五月二六日(土)～六月二四日(日)

常設展示室「歴史・美術」テーマ展示

「能をとりまく美術」

会期 四月一日(日)～五月六日(日)

「社寺が伝えた祈りの美」

会期 五月八日(火)～六月一七日(日)

「会津を訪れた画家たち」

会期 六月一九日(火)～七月二九日(日) —喜多方美術倶楽部

第3土曜イベント

◎四季イベント

「桜能」

出演 会津能楽会

日時 四月二一日(土)午後二時半～六時

◎館長土曜講座

「東北学1」

講師 館長 赤坂憲雄

日時 五月一九日(土)午後一時半～三時

「詩人が歩く、むかしと歩く@県博」

出演 詩人 和合亮一さん

日時 六月一六日(土)午後一時半～三時

講演・講座

※は要申込

◎美術講座

「展示室講座1 能装束の美」

講師 学芸員 川延安直 小林めぐみ

日時 四月一四日(土)午後一時半～三時

「展示室講座2 仏と神の造形」

講師 学芸員 川延安直 小林めぐみ

日時 六月二日(土)午後一時半～三時

◎歴史講座

※「はじめての古文書講座1」

講師 学芸員 阿部綾子

日時 五月二二日(土)午後一時半～三時

※「はじめての古文書講座2」

講師 学芸員 阿部綾子

日時 六月九日(土)午後一時半～三時

◎民俗講座

「記録映像を見る1」

講師 学芸員 鈴木克彦 奥会津の元山と番匠

日時 五月二〇日(日)午後一時半～三時

「記録映像を見る2 只見の手仕事」

講師 学芸員 榎陽介 一カセンブシとフカグツゲンベエ

日時 五月二七日(日)午後一時半～三時

「記録映像を見る3 只見の漁と鮭・わら人形を作る」

講師 学芸員 榎陽介 柳津町青中地区の百万遍

日時 六月三日(日)午後一時半～三時

◎考古学講座

※「高校生のための考古学基礎講座①」

講師 学芸員 藤原妃敏 森幸彦 横須賀倫達

日時 五月二三日(水)午後二時半～五時

※「高校生のための考古学基礎講座②」

講師 学芸員 藤原妃敏 森幸彦 横須賀倫達

日時 六月一三日(水)午後二時半～五時

※「高校生のための考古学基礎講座③」

講師 学芸員 藤原妃敏 森幸彦 横須賀倫達

日時 六月二七日(水)午後二時半～五時

実演

場所 体験学習室

「昔語り」

講師 語り部 横山幸子さん

日時 四月八日(日)午前一〇時半～一二時

「機織り①」

講師 染織工芸家 山根正平さん

日時 四月一五日(日)午後一時半～三時

「須賀川の絵のぼり製作」

講師 伝統技術保持者 大野青峰さん

日時 五月五日(土)午後一時半～三時

「昔語り」

講師 語り部 山田登志美さん

日時 五月六日(日)午後一時半～三時

「機織り②」

講師 染織工芸家 山根正平さん

日時 六月一七日(日)午後一時半～三時

木曜の広場

場所 講堂 入場無料

旅人たちの見た福島

◎「第一回「風土の旅人たち」」

講師 館長 赤坂憲雄

日時 四月五日(木)午後一時半～三時

◎「第二回「芭蕉と奥の細道」」

講師 館長 赤坂憲雄

日時 五月一七日(木)午後一時半～三時

◎「第三回「吉田松陰と『東北紀行』」

講師 館長 赤坂憲雄

日時 六月七日(木)午後一時半～三時

はくぶつかんで遊ぼう!

場所 体験学習室

「こいのぼりをつくろう」

日時 四月二九日(土)

午前九時半～午後四時半

*展示解説員がご案内いたします。

*時間内随時受付 所要時間二〇分程度

やさしい展示解説会

*展示解説員による常設展の案内です。

*毎週土曜日、日曜日の午前十一時と午後二時から三〇分ほど行います。

*なお、他の行事と重なる場合は開催いたしません。

*その他、行事等の詳細につきましては、月行事予定やホームページをご覧ください。

四～六月の休館日

四月 二日(月)・九日(月)・一六日(月)・二三日(月)

五月 七日(月)・一四日(月)・二一日(月)・二八日(月)

六月 四日(月)・一一日(月)・一八日(月)・二五日(月)・二六日(火)